

地域の力を学生の成長に

帝塚山学院大学 文科省「経営改革支援」採択 地域の共創拠点作り

大阪・堺の中でも、泉北地域に立地する帝塚山学院大学(西川隆蔵学長、リベラルアーツ学部、総合心理学部、食環境学部)。2021年度には2つあったキャンパスを統合し、これに合わせて定員も削減、全学的な教学システムを再構築した。今後の新たな取り組みとして、『堺・泉北地域のウェルビーイングを叶える社会共創拠点の構築と人材育成』を打ち出した。これが文科科学省の令和6年度「少子化時代を支える新たな私立大学などの経営改革支援」【メニュー：キラリと光る教育力】事業に採択された。この内容について、西川副学長・食環境学部長・ウェルビーイング共創ハブ代表、教学センターの澤田悟センター長、森美香子企画課長に聞いた。

西川副学長等に聞く

○課題先進地域・堺に学生を出す
泉北地域は、堺の「商業の街」というイメージとは少し異なり、閑静なベッドタウンである。住宅地として発展したこの地域は、強固な産業基盤を持たない一方で、昨今では高齢化が進むなど課題先進地域でもあり、自治体を中心にイノベーション施策が推進されている。文科科学省の経営支援事業に採択された『堺・泉北地域のウェルビーイングを叶える社会共創拠点の構築と人材育成』について、西川副学長は次のように述べる。

「堺・泉北地域に立地する本学の存在意義とは何か」ということと同時に、「地域の未来を担う世代に心を持ってもらえ、地域の発展に貢献する」ということを考えました。昨今の若い世代の多くは「人の役に立ちたい」と考えているようです。これを個々のゼミや課外活動を通して、地域で学び・活動する学生・教員はいます。一方で、本学では社会貢献というと、企業との産学連携研究や小中学校を訪問しての支援活動が中心で、学生の地域貢献活動やボランティア活動を組織的に支援しているという状況ではありませんでした。そこで、今回の事業を通して、地域の中でハブとなる中核組織を学内に設置することで、学内外の窓口を一本化し、これまで散発的であった取り組みを、より横断的・総合的かつ実践的に展開していきたいと考えています。」

同席した西川隆蔵学長が続ける。「DPを定めた際に、具体的に「帝塚山学院大学生の10のちから」として

て本学の学生が身につけるべき力を具体的に落とし込みました。現在、それをもとにアクセスメントも行っていきますが、評価結果が比較的よく出ているのが学生の「地域貢献力」でした。地域貢献力を養うには、地域の人のちとつながり、その方たちの役に立ちたいという意識を育むことが重要です。基盤となるのは、能力というよりも態度や姿勢と言え、これも大学で教えるには限界があります。実際に地域に出て実践を重ねる中で、失敗もしながら、様々な学びや気づきを得て初めて身につくのです。アクセスメントの結果を受け、学生たちがそのような態度や姿勢を身につける機会、また、地域での活動を通して地域の課題を知り、ともに解決を目指す、地域と協働するという機会が、本学には不足していると痛感しました。」

そこで同大学は、堺市、特に大学の位置する泉北地域の課題と、大学が感じていた教育上の課題に一気に取り組むべく、新たに社会共創拠点を構築し、大学の構造転換に取り組みすることとしたのである。

「本学はリベラルアーツ、食環境、心理の多様な学問領域を有していますが、これらを「ウェルビーイング」(身体的・精神的・社会的に充実し、安心して暮らせる状態)というキーワードでまとめ、「ウェルビーイング」を拠点に地域社会のウェルビーイング向上のための教育研究活動や民産官学と連携したプロジェクトを展開していきます。自分自身・職場・地域社会のウェルビーイングを推進する人材を育成・輩出することを目標に、「地域とともに輝く大学」に転換していくこと考えたのです」と西川副学長。

教育的な意味については、「大学がユニバーサル段階を迎える中で、これまで以上に学内で机に向かっている文章をにらむ学び方は合いません。それよりも、目の前の困難を抱える人、具体的な現場の課題と触れ



左から澤田悟センター長、西川副学長、森美香子課長

て、アイデアを出していく中で、深掘りするたに必要部分、あるいは、足りない部分に気づき、学んでいく。そして地域や社会に貢献する人材として羽ばたいていく。これを大学の中核的な教育システムに取り込んでいく。そこそが地域大学の意義ではないかと考えています」と澤田。

りと、学生たちが地域を盛り上げる活動が広がりつつあった。「これまでこうした取り組みに積極的に参加する学生は、教育的価値を認識して参加しているわけではありませんでした。今後は大学として、様々な活動やプロジェクトに参加することの教育的意義を伝え、ポ

ると、学生たちが地域を盛り上げる活動が広がりつつあった。「これまでこうした取り組みに積極的に参加する学生は、教育的価値を認識して参加しているわけではありませんでした。今後は大学として、様々な活動やプロジェクトに参加することの教育的意義を伝え、ポ

ると、学生たちが地域を盛り上げる活動が広がりつつあった。「これまでこうした取り組みに積極的に参加する学生は、教育的価値を認識して参加しているわけではありませんでした。今後は大学として、様々な活動やプロジェクトに参加することの教育的意義を伝え、ポ

ると、学生たちが地域を盛り上げる活動が広がりつつあった。「これまでこうした取り組みに積極的に参加する学生は、教育的価値を認識して参加しているわけではありませんでした。今後は大学として、様々な活動やプロジェクトに参加することの教育的意義を伝え、ポ

ると、学生たちが地域を盛り上げる活動が広がりつつあった。「これまでこうした取り組みに積極的に参加する学生は、教育的価値を認識して参加しているわけではありませんでした。今後は大学として、様々な活動やプロジェクトに参加することの教育的意義を伝え、ポ

ると、学生たちが地域を盛り上げる活動が広がりつつあった。「これまでこうした取り組みに積極的に参加する学生は、教育的価値を認識して参加しているわけではありませんでした。今後は大学として、様々な活動やプロジェクトに参加することの教育的意義を伝え、ポ

ると、学生たちが地域を盛り上げる活動が広がりつつあった。「これまでこうした取り組みに積極的に参加する学生は、教育的価値を認識して参加しているわけではありませんでした。今後は大学として、様々な活動やプロジェクトに参加することの教育的意義を伝え、ポ